



☆里親S (大和地区)

里親になって9年になる。これまで短期養育、3日里親、緊急一時保護の子供たちと出会い共に過ごしてきた。その後、皆元気で幸せに暮らしてほしいと、いつも妻と話している。

現在は、3日里親として5歳から我が家に来ているK君が、この夏10歳になった。幼児のころは、肩車を軽くしてあげられたが、今は体も大きくなり、段々とたくましくなってきた。遊びに来たときは、男同士で釣り堀に出かけたりゲームをすることもあつた。K君は、釣りが上手そうなので、いつか海釣りに行けたらいいなと思っている。キャンプも行こうという話になっている。時にはケンカもした。いろいろな出来事もありなかなか面白い。それから、体重オーバーの私に食べすぎ注意の妻の視線を感じながらも、好物の焼き肉やお寿司、ソフトクリームをK君と食べるのが楽しみだ。実に美味しい。

それはさておき、秋に運動会の応援に行ってきた。80m走で1番にゴールした時のK君の笑顔や、リレーのアンカーでバトンを握り、最後になっても懸命に走る姿がなんともすがすがしく胸が熱くなった。

どの競技にも頑張つて取り組む姿を見られたこと、そして一緒に弁当を食べながら、それを共に喜び合

えたことが、何よりも嬉しい。

帰りの車中で、早朝から弁当作りをして眠くなったのか、居眠りをしている妻の隣で、運転をしながら、グラウンドを走るK君の姿を何度も思い浮かべ心地よい気分で家路についた。

良い一日だった。

3日里親は、一緒に過ごす時間は少ないが、自分たちに

できることは何だろうと、いつも考えている。心配したり、喜んだりしながら、これからも妻と2人でK君の成長を見守っていきたいと思う。



◆第30回神奈川県里親大会 里親トークから

昨年開催された第30回神奈川県里親大会の里親トークの中で話をしてくださった清水里親さんのお話を、大会に参加することが出来なかった皆様には是非お届けしたいと考え文章にしました。清水里親さんの「子どもを信じて待つ気持ち」「愛情のある忍耐」は私たち里親に最も求められるものだとこの里親トークを通して感じていただけたと思います。

「痛みを知る里親に」

里親 清水三和子 (大和地区)

私は平成3年に里親の認定を受けました。私の家族は夫と2人の実子(長男と長女)、そこへ9歳で我が家にやって来て養子縁組をした次男を加えた生活の中で、たくさんの子どもの里親として活動をさせていただきました。

私たちの里親としての働きは、長期委託の子どもたちと過ごす里親として、また施設から家庭体験を必要とする子どもたちに3日里親として、3つの施設から子どもたちを預かる里親としての活動が主でした。3日里親としての活動は非常に大切な活動で、子どもたちが施設から自立をして社会に出て行く時に、家庭体験を通して「家庭」を知り、自分たちが家庭を作るときの助けにするというとても意味のある働きだと考えています。また、父親や母親が入院した時に緊急で預かる子ども、しばらくの間親が子どもを見る事が出来なくても学校に通わせたいという時に短期的に(1年未満)預かる子ども、そのような子どもをお世話する形で里親をして参りました。

預かった子ども達の中には、14歳で妊娠をして15歳で出産をした子どもや、17歳で妊娠をして出産をした母親がいました。また、私の住んでいる地域には外国籍の方が多く、オーバーステイなど色々な事情により、ラオス、ベトナム、ペルー、フィリピンなどの子どもたちを預かったこともあります。先ほど話しましたように、お父さん・お母さんの入院、虐待、遺棄など、色々な事情の子どもたちとの出会いを、ざっと数えてみますと50人くらいになるのではないかと思います。その中には、ハンディキャップがある子どももいました。ある男の子はハンディキャップはありますが、その子どもからたくさんの楽しみをいただきました。足が非常に早く、あちこちの障がい者の国体で、愛知・岐阜・大分・岩手・千葉・東京と、数え切れないほどの国体の追っかけをし、子どもの応援をさせていただき、楽しい時間を過ごすことができました。

昨年はフィリピンの中3の男の子を、1か月半お預かりして本当に楽しい時間を過ごしました。とても可愛い子でした。その子が先日、高校の制服を着て私の家の近くにある高校の文化祭に来たと言って、お友達と一緒に立ち寄ってくれました。元気に頑張っている姿を見せて

れました。今年は誰も預かっておりません。15分という決められた時間で50人の子どもの話をしますと、千夜一夜のごとく話がたくさんあって、まとまりがつかなくなってしまいますので文章にしてみました。これを読ませていただこうと思います。

お預かりした子どもたちの委託解除後の生活は幸せであって欲しいと願っておりますが、とくに小さな子どもたちのその後の消息と言いますか、その生活の様子を知ることができません。しかし、中高生でお預かりした子どもたちは、私の家をよく知っておりますので、委託解除になっても自分から「ただいま」と言って帰って来ます。

先日、久しぶりに大変びっくりしたことがありました。15歳で出産した子どもが13年ぶりに主人の大好きなカステラと葛餅を持ってやって来ました。13年前、彼女の本当の親友だという友達に誘われたということ、当時8ヶ月になる赤ちゃんを見せたいということもあって、私たちもその親友との外出を承諾しました。その時に持って行ったものは1回分のミルクと2枚のおむつだけでした。「おばさん、夕方までに帰って来ます」と言って出て行ったのですが、出かけたまま帰宅しませんでした。この時ほど本当に心配で毎日眠れずに過ごしたことはありません。「どうしているのかな」という思いがこの13年間、いつも頭の隅をよぎっていました。そして何よりも、赤ちゃんがどうしているのかな、生きているのかないつも心配しておりました。

ところが、自分から児童相談所に私の電話番号の問い合わせをして、私の電話番号を児童相談所は教えることが出来ませんので、私に彼女の電話番号を教えてください、私から電話をかけて会うことが出来ました。

13年前我が家に帰って来られなかった理由が分かりました。また、本人は実母の虐待から逃げていたのですが、先日会った時には「おばさん、私、子ども虐待しなかったよ」と泣きながら教えてくれ、2人で抱き合って泣きました。この子が13年前、私の誕生日にくれた手紙の一文ですが、是非これを読ませて頂きたいと思います。これは私の宝物のひとつです。

『おばさん、お誕生日おめでとう。私は生まれてきて二度生きて来て良かったと心から思ったことがある。一つ目は赤ちゃんが元気に生まれてきてくれたこと、二つ目はおばさんに出会ったことです。私には本当のお母さんがちゃんといるし、生んでくれたことへの感謝もここに来て出来るようになった。最初は憎んでいた。でもおばさんは私にとって心の母だよ。おばさんがいるから今は前向きに考えられるんだよ。いつも真剣に向き合って話をしたり、教えてくれたり、愛情をくれて本当にうれしいよ。ありがとうね。初めて本当の意味で大人を信じられた。今まで死にたいと思ったこともあったし、辛い

こともたくさんあったけど、今思ってくれている人が1人でもいるってことが、幸せなことなんだって心から思う。そういうふうに思えるようになったのも、おばさんと出会えたおかげだね。』

まだまだたくさん書かれています、何よりも大切な私の宝物です。この手紙を受け取ったとき、やっぱり里親で良かったなと思いました。

また、ある1人の子どもは嘘・過食・ごまかし・薬物依存・試行動・リストカット・家出・乖離、私自身が警察官ともメル友になるような大変な子どもでした。しかし、今では結婚し、子供を連れてよく帰って来ます。最近「ばあば、ばあば」と言われたりもして複雑な気持ちになったりしますが、可愛く帰って来てくれます。我が家で作った料理の味がおふくろの味なのか、「おいしい、おいしい」と言って食べてくれます。残り物は全部「おばさん、これ持って行っていい？」と言って持ち帰る姿に、立派なお母さんになって頑張っているようで喜びを感じます。まだまだ、色々と問題を起こしますが、それでも本当によく頑張っています。

どの子ども達も嘘やごまかしをしながらでないと生きて来られなかったのだと思うと、里親は焦らず待つこと、お腹いっぱい食べさせてあげること、出来るだけお日様の匂いのするお布団に寝かせてあげること、一緒にテレビを見、一緒に遊ぶことが必要であり、思春期の子どもとは深夜にカップラーメンを食べ、歌番組に無理をしながら付き合っている私です。

また別の子どもですが、2階にいる子どもと会話ではなくメールで話をしました。寝る時もメールで「おやすみ」と書いてくるので私も「おやすみ」とメールで返します。「ごはんよ」とメールで打ちますと「はい」と2階から降りて来ます。

また、ある高校生の子どもは、我が家に来て「おはよう。おやすみ。行ってきます。いただきます。ただいま。」のような言葉は7か月間口にしませんでした。食事もみんなが居ても自分だけさっさと食べ、お風呂もいつ入っていつ出たのかわからない。そのような子どもでした。その子はとても頭の良い子どもでしたので、本当に不思議だなと思いました。そこで作戦を立てて、主人や子ども達、元里子達みんなに、なるべくオーバーアクションで「おはよう。おいしい。行ってきます。さよなら」を言ってねと頼みました。すると、皆が協力してくれました。主人はおはようと挨拶をした後でも、その子が起きてくると何回も「おはよう」と挨拶をしてくれました。そして7ヶ月程過ぎた頃、やっと小さな声で「おはよう」という声が聞こえました。学校へ行く時も「行ってきます」と言ってくれました。その時は本当にうれしくて、私は大きな声で「おはよう。行ってらっしゃい。気を付けて。」と言いました。

それからこの子は言葉が出せたこと、話してもいいのだと思ったのか、家に帰って玄関のドアを開けるなり「ねえねえ、おばさん、聞いて聞いて」と言って話し始めます。学校での嫌な話、楽しかった話、あの先生はこうだとかどうだとか。この子はこんなに話せるのだと思うぐらい話しました。そしてこの子と色々な話をしている中で、初めて分かったことがありました。この子はもの心つく頃からある意味ネグレクトで、お母さんは夜寝ている間に仕事に出て行き、朝はお母さんを起こさないように自分は起きて部屋にあるパンなどを食べて学校に行く。そのような生活だったので、この家では挨拶をするということがなかったのだということが分かりました。なるほどと知らされましたが、私は7ヶ月の間待ちました。

里親として、優しく忍耐をして待つことは疲れることもたくさんありますが、心を開いてくれる喜びは大きいです。幸せいっぱいになり、ますます可愛くなります。私は子どもの方にしか心を開くドアノブがなく、子どもからノブに手をかけて開いてくれるのを待つのが里親なのかなとこの歳になってつくづく思うようになりました。一人ひとりの子どもは、心を開いてくれる時間に差がありますが、必ずいつかその心のドアを開いてくれます。そして、手をかけてくれることを信じています。愛情を持って待ち続ける中で子どもたちは変えられて行きます。変えることが出来るのは愛情のある忍耐だと思っています。

最後に、3年前病気で突然天国に引越しをした31歳の養子縁組をした次男が書いた文章を読ませていただきました。これは、次男が職場に入ってから書いた文章だそうです。

息子は小・中・高・大学とバット1本で進学したような子どもです。施設の担当職員と一緒に我が家に来た時に、小さなグローブを持って来ました。施設の職員は「この子はとても運動能力がある子ですから、清水さんのお家で落ち着いたら、是非何かスポーツをやらせてくれませんか」とおっしゃいました。でも、最初からグローブを持って来ると言うことは、野球をやらせて下さいということかなと思いました。

息子は、自分が高校野球の甲子園でホームランを打ったら、「あばよ」と言って自分を児童相談所に置いて行った実のお父さんが「ゆたか、ごめんな」と言って来てくれるかなと言っていました。そして「自分は野球をやりたい」と言いました。その時私は「そんな野球はやめようよ」と言いました。そして「本当にあなたが好きで楽しくやれる野球だったらやっていいよ」と言いました。最終的には小・中・高・大学、施設では監督、自分でも社会人野球を通して楽しい時間を過ごしたこの世での人生だったと思います。

『ここにいる意味』

私はなぜ児童養護施設に就職を決めたのか。それは私にとって人生を大きく変える出会いがあったからです。過去にさかのぼり、私は幼い頃家庭の事情で施設に入所していました。私は大人の愛情、家族というものを受けて育っていないため、どう大人に対して甘えをぶつけていいのか分からず、わざと困らせる行動をとることで、職員の目を私に向けさせようと私なりの必死のアピールの仕方でした。そんなアピールの仕方しか知らない私に優しく手を差し伸べてくれた人、そうではない大人がいることに不信感を抱くようになりました。その頃、愛情に飢えていた私に優しく手を差し伸べてくれる大人が私には神様みたいに思え、救われたことを今でも覚えています。

それからしばらく、施設での生活が続きました。ある日、私に転機が訪れました。里親、現在の両親に出会うことが出来たのです。初めは、見知らぬ家庭に行くことに対し、家族というものに対する不安、大人に対しての不信感、周りの目というものが気になり、見知らぬ家庭に飛び込むことにはかなりの抵抗がありました。しかし、里親の家庭との関わりを持つに連れて、そんな不安や大人に対しての不信感はずぐになくなり、見知らぬ私を受け入れ今まで受けたことのない優しさで包んでくれました。

私には里親の家庭での出来事全てが初めての体験で驚きの連続でした。やがて、里親の養子として家族の一員になることが出来ました。里親の家族に慣れるまで、幾度となく衝突を繰り返しながら、私と里親との間にある

溝を埋めて行きました。時には酷いことを里親に言ってみたり、精神的に追い詰めるような行動をとるなど様々な苦勞をかけてきました。そんな私にいつも里親は笑顔で優しく接してくれました。

私は幸せという意味をこの家庭で初めて知ることが出来ました。私は幸せというものを知らない頃、私自身が何のために生きているのか、ここにいる意味は何のためになのかと自分自身の存在を否定して生きて来ましたが、里親に出会うことができ、私の存在を唯一受け入れ何のために生きているのかを教わりました。里親はどんな人にも真剣に向き合い、優しさで包み、愛情を注げる、そんな大人だっていることに私は感動し、私もこんな大人になりたいと強く思い、私が体験した優しさ、愛情、こんな大人もいること、自分がここにいることの意味を児童に伝えたくて児童養護施設への就職を決めました。

私はたくさんの優しさに包まれ、幸せをたくさん頂きました。今度は私が里親から受け継いだものを児童に伝えていくことが私の使命だと思っています。この先どんなことがあっても、私の命に代えてでも児童を守り、いつか児童が些細な幸せでも感じ、今まで生きてきた中での人との出会いが自分にとって意味のあるものだと、児童が成長したときに感じてもらうため、私を大きな心で優しさいっぱい包んでくれた里親のように、私も児童に対し優しさいっぱい包んであげたいと思います。

8年間の勤務でしたが、精一杯この世での働きを終えて、天国へ引越しをしました。

御清聴ありがとうございました。

HAPPY♡レシピ

しあわせが生まれる食卓



＜材料3人分＞
お麩 15g
バター 大さじ1
砂糖 大さじ1/2

- ①フライパンにバターを入れて中火にかけ、バターが溶けたら弱火にして麩を入れて絡めながら炒める。
 - ②こんがりしたら火を止め、きな粉、砂糖を加えて全体によく絡める。やりにくい場合は袋などに入れて振りながら絡めても良い。
- ★出来立てが一番おいしいので、その都度作るのがオススメです！トースターやオーブンでも作れます。160℃で10分程度。



＜材料＞
みかんの缶詰 1缶
粉ゼラチン 5g

- ①缶詰を開けそこからシロップを大さじ3杯取り分けてゼラチンをふやかす。
- ②ふやかしたゼラチンを電子レンジ500wで30秒温めて溶かす。
- ③溶かしたゼラチンを缶詰の中に直接入れてよく混ぜる。冷蔵庫で2時間以上冷やして固める。
- ④固まったら缶切りで底に切り込みを入れ器に盛る。



＜材料4個分＞
ホットケーキミックス100g
水 大さじ3
あらびきウインナー 4本

- ①ポリ袋にホットケーキミックスと水を入れて手でモミモミとやさしくこねる。ひとまとめで4等分する。
- ②4等分にした生地をギュッと握って空気を抜き、コロコロ転がして30cmくらいに伸ばす。
- ③伸ばした生地をウインナーに巻き付け、オープン皿に巻き終わりを下にして並べる。予熱200℃のオーブンで8分焼く。